

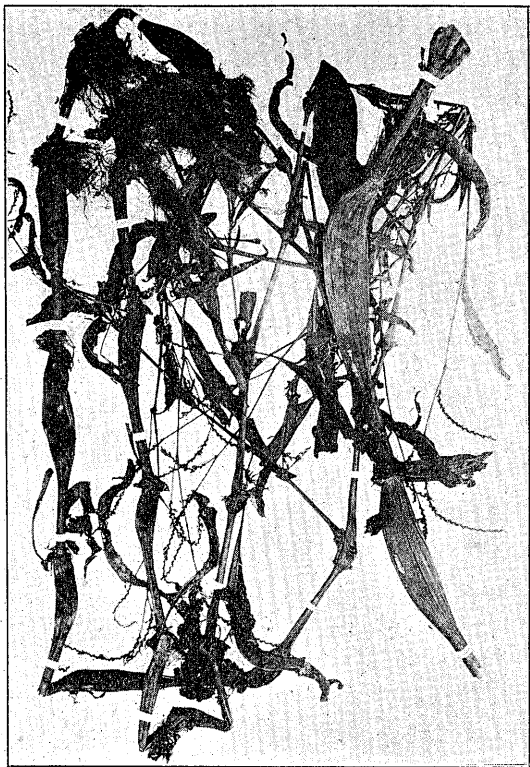
採 掘 餘 録（其五）

久 内 清 孝

K. HISAUTI: Botanical Notes (V)

○おほいぬたでノ異状莖

昭和11年10月18日佐竹、前川氏等ト上州多々良沼へ行ツタ折、水中ニ澤山生エテ居タおほいぬたでノ節間ガ、異状ニ肥厚シテ居ルノニ出會ツタノデ多量ニ採集シテ來タ。其時ノ腊葉ガ此程出テ來タカラ、ソレヲ寫眞ニ撮ツタノデ茲ニ公表スルコトニシタ。當時其内景ヲ檢シテ見タガ、他物ノ寄生トカ、侵入ニヨリ惹起サレタノデナイ様ニ觀察シタ。おほいぬたでノ莖ハ、多少コンナ傾向ガナイデモナイガ、此場合ニハ、ソレガ甚ダ顯著ニ現レテ居タ。水中ノ部分ガ特ニ生態的ニ著シクナリ、且ツ節ガ多數ノ根ヲ發生シテ水中ニ擴ツテ居タ點カラ見ルト、多分之ガ生エテ居タ個所ガ水ニ浸ツテ、長ク水浸シナツタノデ、水中生活ニ便ニナル爲メ、容積ヲ増シテ浮莖化シタモノト思ハレル。シカシ、内部ノ組織ニハ水生植物ニ見ル如キ通氣組織ハ認メラレナカツタ（尙之ハ生物學實驗講座第9卷（1938）中井博士ノ高等植物野外實驗法 p. 22 圖 12 ト同一材料ニツキ詳細ハ同書ニ譲ル）。



上州多々良沼産おほいぬたでノ異型

〇たうかせん屬ノ一別種

埼玉縣下ニアル、厚生省所屬ノ藥用植物栽培試驗圃場ニ一種ノきく科植物ガ栽培サレテ居テ、ソレガ土木香即おほぐるまニ似テハ居ルガ、葉ガ短ク且大キク一見別物ト判斷サレタノデ、色々調べタガ、果シテ既ニ國內デ栽培サレテ居タモノカドウカ不明デアル。ソレハ兎ニ角トシテ、本品ハ歐洲產ノモノデ *Telekia speciosa* BAUMG. ノ名デ REICHENBACH ノ *Iconographia Botanica* IV, t. 350 (1826), CURTIS's *Botanical Magazine* vol. 63 (1836) t. 3466 等ニ圖説サレテ居リ GÄRCKE ノ *Illustrierte Flora von Deutschland* ノ様ナ通俗書ニモ出テ居ルモノデアルト判ツタ。茲ニ掲出ノ寫眞ハ GÄRCKE ノ書カラ複寫シタモノデアル。而シテ、現時ノ學名ハ *Buphtalmum speciosum* SCHREB. デアル。我國ニハ從來同屬ノ *B. salicifolium* L. ガ渡來シテ居リ科學博物館ニモ標本ガアツテ、たうかせんナル和名ガ植物總覽第1版ニモ出テ居ル。ツマリ唐ノかせんさうノ意デアラウガ、本品ハソレヨリモ更ニ大型ノモノダカラ、おほたうかせんト呼ビタイ。花ハかせんさうノ様ナ黃色デ舌狀花瓣ハ細ク6月咲ク。



おほたうかせん (新稱) (*Buphtalmum speciosum* SCHREB.)

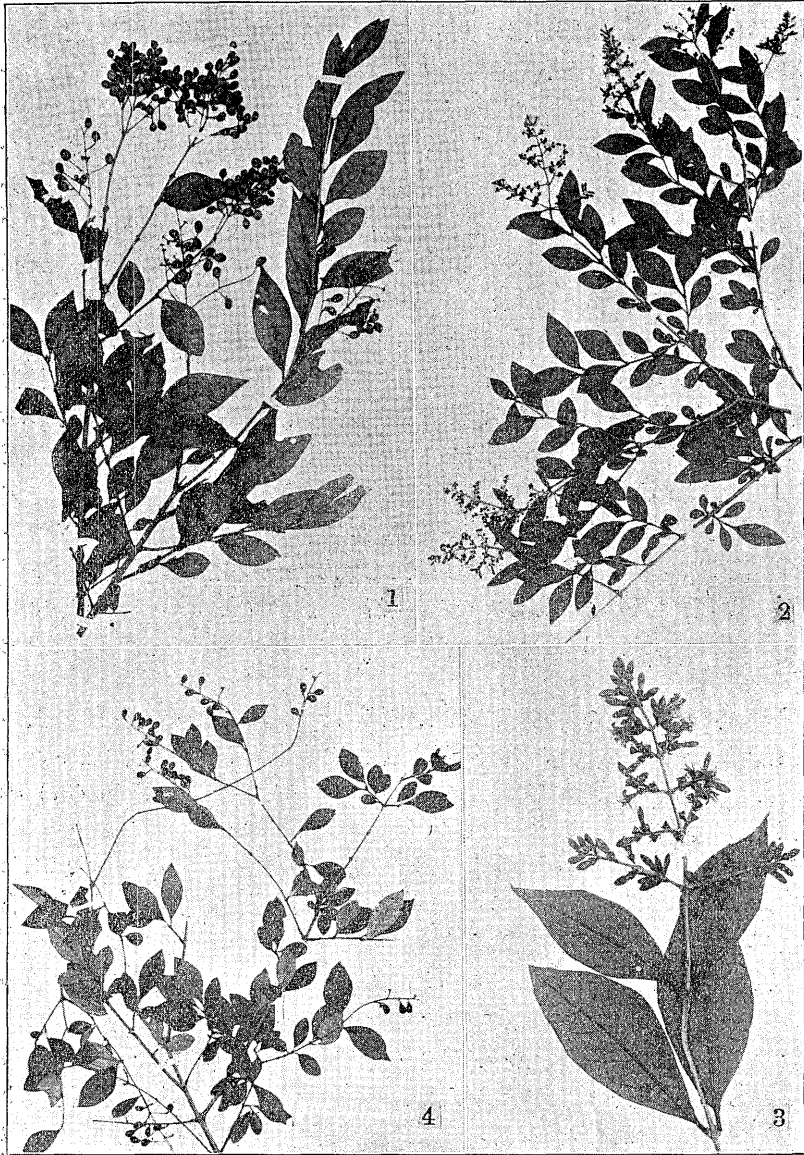
(左) GÄRCKE ニヨル (右) 粕壁藥用植物栽培試驗圃場栽培品

○もんたちばなノ雌本

近年もんたちばなヲ鬻グ花戸ガ多クナリ、3-4 月頃ニハ隨所ニ之ヲ見ルノデアルガ、何レモ花序ガ多小紫色ヲ帶ビタ雄本デアツテ、雌本ヲ見タコトガナイ。蓋シ親木カラ挿木法ニヨリ増殖シタ爲メデアラウ。ソレ故、果實ヲ賞スルコトガ出来ナイ。若シ雌本ガアツタラ春ハ花、秋冬ハ果ヲ見ルコトガ出来テ都合ガヨイ様ニ思ハレテ居タ所、本年横濱ノ知人ハ花序ノ綠色ナ雌本丈ヲ栽培シテ居ルコトガ判明シタノデ、相互ニ株別ケシテ交換ヲシタカラ今後ハ互ニ果實ヲ見得ルト期待シテ居ル。本品ハ故矢田部教授ガ、日本植物篇 (1900) p. 340 デ學名ヲ公表サレタガ夫レヨリ前ニ外國デ出来タ名ガアルノデ、ソレガ物ヲ云ツテ居ル。和名ハ日本植物篇ニモくたちばなトアルガ何レ誤植デアラウ。其理由ハ此ノ書ハ矢田部教授ノ卒去後、松村教授ニヨリ上梓サレタモノデアリ、且松村氏ノ植物名彙ヤ名鑑ニハ共ニもんたちばナニナツテ居ル處カラデアル。尙 BAILEY ヤ REHDER ノ書ニハ、色々ナ名ガアリ、相當ノ行キサツガアル様ダガ仲々面倒デアル。尙もんたちばナト稱スルモノハ、何レモ園藝品デアルガ、自生モアルコトガ牧野先生ニヨリ植物學雜誌 XX 卷 p. 238 ニ報告サレテ居ル。ソレニヨレバ、産地ハ伊豆ノ淡島デアルガ多分内浦灣内ノ三津ノ附近ノ小島ノコトデアラウ。私モ曾テ此ノ島ニ上陸シタガ、其折ニハ之ヲ精査スルコトガ出来ナカツタ。ソレカラ、販賣サレテ居ルモノガ何レモ雄本デアルコトハ花ヲ見ル丈ナラ、雌本ニ優ル爲デアラウ。

○FRANCHET & SAVATIER 兩氏ノ日本植物志ガ日本ノ植物ヲ稽查スル上ニ甚ダ便利ナ事ハ申ス迄モナイガ、冬期野良仕事ノ出来ナイ季節ノ讀ミ物トシテモ又適當ナモノデアル。其第 II 卷ノ *Ligustrum ciliatum* ノ條下 (p. 437) ニ次ノ様ナ記事ガアル。

“Presque tous les spécimens récoltés autour d'Yokoska sont complètement glabres, bien-que tout-à-fait spontanés.” (“横須賀附近デ採集シタ標本ノ殆ンド全部ハ無毛デアル、全々自生デアルケレ共”。spontanés フドウ譯スカハ問題ダガ私ハ自生ト解スル。ソレナラ bien-que ガ先ニアルノガ都合ガ悪イデハナイカ、ダカラ偶生即チ偶然ニ産スルノ意デナケレバ bien-que ガ意味ヲナサナイトナス説モアルガ私ハ、著者ハ栽培シタモノデナク全ク自生ノモノデアル即チ天然ニ産スルニモ拘ラズ、ツマリ人ノ手ニ觸レナイデ自然存在スルニ拘ラズ無毛デアルト云ツテ居ルモノト解スル)。然ラバ果シテ其正體ハ何物デアラウカ。之ヲ解決スルニハ先ヅ Fr. & Sav. 氏ガ *L. ciliatum* ト稱スルモノカラ考ヘナケレバナラナイ。ソレニハ同書第 I 卷 p. 313 カラ見テ今日ノさいこくいはたら



(1-3) 三浦半島産けなしきよすみいぼた (4) 上総鹿野山産同上 (1, 2, 4 $\times \frac{1}{4}$, 3 $\times \frac{1}{2}$)

シイガ、又長イ間用ヒラレタ通りみやまいぼたヲ指シタモノカモ知レナイ。然シ其何レヲ指シタニシテモ吾人ノ知ツテ居ル横須賀附近ニハソレラシイモノハ何レモ見ラレナイ。勿論三浦半島ハ山嶽重疊シタ廣イ區域デアリ、且ツ Fr. 氏ノ時代出入自在ナリシ部分モ今デハ其自由ヲ剝奪サレテ居ルカラ餘リ大キナ事ハ云ヘナイガ、現在デハ彼等ノ云フ様ナモノハ存在ノ可能性ガ鮮イ。然シ乍ラ、余ノ經驗ニ依レバ同半島ニ顯著ナル地溝ト、其對岸ナル千葉縣下ノ加茂川地溝ニカケテ、一種ノいぼたガアリ、而シテ其レガみやまいぼたノ無毛品ノ様ニモ見エル、ソレガ茲ニ掲ゲタ寫眞デアル。

ソレナラ其レガ何シダト云フニ私ハきよすみいぼたノ一型デ曾テ上總鹿野山デ余ノ採集（31 X, 1937）シタ花序ヤ若枝ニ毛ノ少イモノデ、中井博士ガ *Ligustrum kiyozumianum* NAKAI var. *glabrescens* NAKAI (nom. nud.) ト命名セラレテ未發表ノモノト考ヘル。相房兩半島ヲヨク見ルト、葉ノ大小ハ安定シテ居ルト思ハレナイガ、葉ハ橢圓形デ兩端ガ尖ルガ尖端ハ更ニ鋭イ。和名トシテ東大標本ニ前川文夫君ノ手蹟デ書イテアル、**けなしきよすみいぼた**ナル新稱ヲ茲ニ提出スル。

***Ligustrum kiyozumianum* NAKAI**

var. ***glabrescens*** NAKAI in sched. in Herb. Univ. Imp. Tokyo.

Inflorescentia *glabrescens*.

Hab. Nippon Hondo: Prov. Kazusa, Mt. Kanôsan (Leg. K. HISAUTI, 31 X, 1937-Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo).

Planta endemica.